

柴北川プロジェクト通信 22号

平成24年1月28日(土)～29日(日)

第2回竹林伐採・竹活用作業が行われました。

昨年12月3・4日に開催した竹伐採・竹活用デモ（竹炭づくり、竹粉化）に引き続き第2回の竹林伐採・竹活用作業を2日にわたって実施しました。

まだ冬の寒さが残りつつも穏やかな晴天に恵まれ、午前9時半に博多駅筑紫口のマツダレンタカー前に集合した共助研の参加者7名（針貝会長、木寺リーダー、濱田さん、金尾さん、西尾さん、武市さん、森脇）は、8人乗りのワゴン車で、少々窮屈な車内ながらも春の気配を間近かに感じられる茶色系の大分道を楽しみながら豊後大野市に向かいひた走り、予定通り午後12時過ぎには、いつもの「あすか」に到着しました。定番のだんご汁定食&鳥の天ぷらで腹ごしらえ、いざ竹伐採へと気合が入れたところ、誰とはなしに「焼き芋が食べたい」と車内にささやく声がありました。遅刻を覚悟で急ぎょ芋探しに現場とは逆の三重方向に奔走しましたが、幸いにも5分後には野菜直売所を発見しました。すかさず車を降り7kgくらいのおいしそうなお芋がぎっしり詰まっている芋袋を購入し、密かに笑みを浮かべる木寺リーダーの姿がありました。

<今回のスケジュール>

1月28日(土) 1日目

9:30 出発

13:00 現地集合

13:00～16:00 竹活用実践

16:00 1日目解散

18:30 懇親会（共助研のみ）

1月29日(日) 2日目

9:00 現地集合

9:00～12:00 竹活用実践

12:00～13:00 昼食

13:00～14:30 合同会議（中止）

14:30 解散

1. 1日目の竹林伐採・竹活用作業

長谷地区天ヶ瀬の山ふところにある渡邊事務局長さん宅の裏山に芋探しのおかげで午後1時15分に到着。植林された杉林に囲まれた千㎡くらいの平らな空間にはすでに大勢の人が竹活用作業を開始していました。その数おおよそ20人（共助研の波木事務局長、玉田さん、中川さんは現地集合）そこでは昨年12月3日に行われた「竹活用デモ」を進歩させ今回は本格的な竹林伐採・竹活用の流れ作業が効率的に行われていました。



竹伐採の作業風景



竹粉碎機による竹パウダーの製造

敷地の手前にはキャタピラを付けた竹粉碎機が爆音とともに竹を粉碎し、勢いよく竹パウダー作られ、あたりには粉末が空中に舞っていました。

少し離れたところでは、無煙炭化器による竹炭のために炎が数メートルの高さまで上がっていました。その奥では炭窯が2基、1基はすでに煙が立ち上り、三浦隊長を中心に1基は窯の製作中でした。竹林には竹を伐採する人々が数人いました。①竹粉碎機、②無煙炭化器、③炭窯、④竹伐採と大きくは4つの班に分かれ効率的に作業が進められていました。

共助研メンバーの10人は前回教えていただいたチェーンソーを実践するために9人は竹伐採、1人は焼き芋担当とし、早速作業を開始。竹林の竹を1本、1本チェーンソーで倒し枝を払い、炭窯に入るように2mの長さに切りそろえ、その場にきれいに積んでいきます。前回の練習が功を奏したのか共助研のメンバーはみなさん馴れた手つきでチェーンソーを操っていました。チェーンソーは1台しかなかったため順番が回ってこなく、まだやりたらないメンバーもいました。あと何度か練習するとプロになれるかも知れません。

作業が進められ1時間半くらい経つころ、サツマイモがおいしそうに焼けたので、焼き芋を食べながら一服しました。たくさんあったサツマイモも一気になくなりました。



燃え上がる無煙炭化器の竹



製作中の炭窯と三浦隊長



馴れた手つきのチェーンソー捌き



即席コンロとサツマイモ

作業も順調に進み、荒れていた少し空間ができてきました。4時過ぎになり日もだいぶ傾いた頃そろそろ終了しようと会長の合図があり作業を止め、本日の反省が行われました。明日の作業の確認後解散しました。

本日の収穫は竹パウダー約25袋、無煙炭化器による竹炭はドラム缶4缶、炭窯用に2mに切り揃えた竹山2箇所、炭窯2基（炭焼中）。竹パウダーは約1ヵ月間寝かせて発酵させて畑の肥料として使用します。無煙炭化器による竹炭は2～3日冷やして使います。炭窯の竹も温度調節を行いながら2～3日かけて竹炭にし、三浦隊長が東北の支援に使うそうです。

解散後、共助研のメンバー7人でいつものホテル豊洋で休憩後、三重町の居酒屋で反省会と竹活用について熱い議論を戦わせました。



切り揃えられた竹（竹炭用）



本日の収穫の竹パウダー



1日目修了の集合写真

2. 2日目の竹林伐採・竹活用作業

2日目やや重い頭を抱えながら黒松生活改善センターで着替えした後、昨日と同じ現場に向かいました。

午前9時過ぎに朝のミーティングで本日の作業を確認しました。本日は竹の伐採と杉の間伐を中心として竹粉碎機にチップづくりは行われず、また無煙炭化器や炭窯は昨日の成果を見守るだけとなりました。昨日に引き続き焼き芋も追加されました。竹や杉を切る班と竹や杉を平地まで運ぶ班に分かれ作業を進めていきました。1時間くらい過ぎたころおいしそうにできた焼き芋を食べながら休憩しました。

11時過ぎに作業が佳境に入った頃、大事故が発生しました。倒れた杉の間伐材が「柴北川を愛する会」のメンバーの嶺さんの頭上を直撃したのです。嶺さんはその場でしばらく安静にした後、すぐに病院に行かれました。けがが大事に至らず早期のご回復を祈念するところです。

山林等での作業に危険性ははらんでいることを改めて思い知らされるようでした。馴れた地元の方でもこのようなアクシデントがいつ起こるか分からない作業です。我々共助研のメンバーは大半が素人ですので、今後は会員の皆さんの安全対策を徹底していきたいと思います。（その後、5月になって嶺様のご回復の連絡を頂きました。）

事故後嶺さんの容態を心配しながら作業を収束させ、お昼前に作業を終了しました。杉林にも光が差し込みました。手入れ後の杉林をみるとつくづく山林の美しさと手入れの必要性を感じました。



2日目朝のミーティング



手入れ前の杉林



手入れ後の杉林

今後の活動には安全対策を十分に注意しましょう。ここで、木寺リーダーが作成された「竹林整備の留意事項」を掲載します。

柴北川 竹林整備（1月28～29日）の留意事項（服装・安全管理等）

（2012/01/22）

今回初めて参加される方もおられますので、服装等に関する留意事項を以下のとおり書き出しました。この他にも留意事項は多々あると思われるので、各自で追加の判断等をお願い致します。

1. 服装・装備

- ① **帽子・ヘルメット**：山に入る際はヘルメット着用が基本です。ただし、帽子を被っていれば最低限の安全は確保できると判断しています（帽子は必須です）。
- ② **作業用手袋**：皮製品が良い。少なくとも握る部分をラバーでコーティングしたものが良い。炭焼きを行うので燃えやすい化学製品製はダメ（トゲのある木、ハゼによるかぶれ対策も考慮している）。
- ③ **安全靴・作業靴**：足場の悪いところ、石・倒木があるところ、斜面等を考慮すれば、安全靴、登山用靴がお勧め。長靴も可。
- ④ **作業着**：トゲのある木、小枝の先から身を守る、草の実等が付く、汚れる可能性もあることを考慮して、作業着または作業用の服装は必要。炭を焼くので化学製品は避ける。
- ⑤ **防寒対策・雨具**：動けば暑くなることもあるが、一定の防寒対策を考えた服装は必要。天候次第では、合羽等の準備も各自行う。

2. 安全に関する留意事項

- ① **交通安全1**：車で狭い道、舗装されていない道に入るときは、現地の方の案内に従う。
- ② **交通安全2**：荷台には乗らない。
- ③ **交通安全3**：主要道路沿いで車を止め、降りて観察、話し合う時は「他の車の通行」に特に留意する。
- ④ **交通安全4**：行き帰りの安全運転。
- ⑤ **転倒防止**：穴ぼこ箇所、急斜面、足下の悪い箇所、倒木を踏むで「滑って転ぶ危険が大きいこと」に留意。足下を確認して、慎重に上り下り、移動する。どうしても急斜面を登る必要がある場合は、捕まるものを必ず確保する。
- ⑥ **準備体操**：足首、腰等を痛めないように体をほぐしておく。
- ⑦ **チェーンソー・カマ等の使用**：チェーンソーのキックバック等に留意。チェーンソー作業には不用意に近づかない。
- ⑧ **倒木注意**：伐採木（竹）の倒伏方向を見極め、その方向には入らない。
- ⑨ **火傷注意**：炭焼き中は、高温になるので無理に近付かない。
- ⑩ **竹粉マシーン・竹粉注意**：機械動作中には本体には近づかない。粉末回収等で近づく時は注意して行う。なお、竹粉は細かく、目に入りやすいので注意する。首からも入りやすい。
- ⑪ **竹くず等の破片注意**：木製ハンマーで竹を割る作業の時等は、破片が飛ぶ。絶対に注意する。作業者に近づかない。

（文責：木寺リーダー）

作業終了後、黒松生活改善センターに戻ると「柴北川レディース」の皆様により昼食が用意されていました。本日のメニューは豪華うどん定食です。いつもおいしく、彩豊かな食事を用意していただき、さらにおかわりも可。レディースの皆様にはほんと感謝です。おなかいっぱい食べー息。

昼食後予定していた合同会議は中止となり、解散となりました。



豪華うどん定食

その後、共助研のメンバーのみで山桜の状況を見に行きました。まだ1月で少し気が早いとは思いますが、山桜も出番を待っている様にも見えました。あと2か月後の開花を想像しながら帰路に着きました。



奥の院のサクラ



成瀬谷のサクラ

(文責：森脇)